2023ジェンダー平等ミーティング

# ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

## 5月24日（水）テーマ

## 「ジェンダーって何？」

G-NETしが
じーねっと
滋賀県立男女共同参画センター

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

5 ジェンダー平等を実現しよう

# 「ジェンダーって何？」

## 講師：藤野敦子さん（京都産業大学教授）

・「ジェンダー」という概念は欧米諸国から始まった

・もともと、ジェンダーは「分類」という意味

・ジェンダーは、社会や文化の中でつくられた性のあり様である。

・ジェンダーは、目に見えない規範によって、上下・支配・従属の関係になる可能性がある

・規範に従う中で、無意識のうちに不平等を生み出しているかもしれない。それに気づいて行動することで、不平等な扱いを正し、「個性の尊重」「ジェンダー平等」につなげることができる。

## 講義を受けての感想

・何となく分類されたことであっても社会に根付いてしまい、思い込み、差別などにつながってしまっていることがあるのかもしれない。

・男性、女性、その他の性以上にも分類できる。分類した方が良いのかもしれない。

・言語、分類が国によって思っていた以上に異なっている。

・カテゴリー分けしてしまうことで、上下差が生まれてしまう。

・これまでジェンダーに触れる機会がなく、新たに学ぶことが多かった。

## 男らしさ、女らしさに縛られた経験や話

・髪が短いときに男みたいだと言われた

・体育の授業が男女別で行われた

・男だから力が強いと思われている

・アンケートの性別欄が男女しかなかった

・外食をする際のレディースセット

・合コン、マッチングアプリ
→男性は有料、高額、女性は無料、少額。

・ジェンダーレストイレの安全性は？使い心地は？

## 男らしさ、女らしさに縛られた経験や話

・痴漢問題は女性専用車両で解決するのか疑問

・スポーツでトランスジェンダーの人が活躍するのはどうか

・男性のほうが雇いやすいと考えられる。出産等が採用にも影響する

・面接で結婚したら仕事を辞めるか聞かれて不快だった。女性だから聞かれたのだと思う

・男が外で働き、女性は家で家事をするというイメージ

・学校制服やスーツ　→選択できる機会が多くなってきた

## 無意識の中で拘束されていること

・アンケートなどに男性、女性、その他

→まだ男性、女性の２分類が一般的だと思ってしまい、その他があることに驚く

・背の順、出席番号、身体測定、体育の授業を男女別にすること

→分類された性に対する違和感。悩むことがあるかも

→大学では、身体測定、体育は男女合同。
小学校～高校まで分ける必要はあったのか

・学校では、男性、女性に分類される機会が多く感じる。

## 交流しての感想

・思っていたよりも緊張せず、楽しく話すことができた。

・スポーツ、仕事でも男女別になっていることが多く、驚いた。

・スポーツを性別で分けるのではなく、身長、体重で分けても良いと思う。

・会社、スポーツ(選手)男性、女性で稼ぎが違う。

・結婚して退職した先輩の話　次の就職先の面接で働くことについて夫はどのように感じているのか聞かれたことも差別かもしれないと思った。

・保育園の入園 夫婦共働きでも難しい。祖父母の状況も聞かれる。

## 交流しての感想

・偏見からくる女性管理職、官僚の少なさから、男女不平等であることが露呈しており、やはり日本は時代遅れである

・今後については、若者が選挙に行き、積極的に女性に票を入れることで女性の声が届きやすい政治ができるのではないかと考えた。

・困っていることをもっと知りたいと思った

・特別男性、女性という意識で生きていない。
潜在的に男や女という意識はあるが、意識していないので生活する上では困った事はない

・最近は男性の育休取得が増えてきている。そういう世の中になってほしい

## 交流しての感想

・今後もグループで話すことで理解を深め、広げていきたい

・小中高生にもこのような場で話す機会があるとよい

・自分にはなかった視点やテーマについて知ることができた

・ジェンダーについて話す機会は少ないので、話せてよかった

・LGBTQは少数だからカミングアウトしづらいのかもしれないが、個性が大切だと思う

2023ジェンダー平等ミーティング

# ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

6月24日（土）テーマ

## 「ジェンダー平等って
## なんですか？」

G-NETしが（じーねっと）
滋賀県立男女共同参画センター

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
5 ジェンダー平等を実現しよう

# 「ジェンダー平等ってなんですか？」

## 講師：櫻井彩乃さん（＃男女共同参画ってなんですか　代表）

・「男だから」「女だから」はまだまだ残っている

・男女の生き方を決めつけることは、無意識のうちに誰かを傷つけるおそれがある

・いろいろな生き方が認められること、押しつけではなく自分で選べることが大事

・日本のジェンダーギャップ指数は、下がり続けている
　日本は取り組みが遅い
　他国はスピード感をもって取り組んでいる

# 「ジェンダー平等ってなんですか？」　②

## 講師：櫻井彩乃さん（＃男女共同参画ってなんですか　代表）

・女性議員の少なさ
　どうして増えた方がいいのか
　　→なかなか問題視されない「女性の健康」「妊娠・出産」「ハラスメント」などの　政策決定の場に女性が必要

・就業者および管理的職業従事者に占める女性の割合
　→　諸外国と比べて低い水準

・家族のカタチの変化

・機会の面でも日本はまだまだジェンダー平等ではない

## 講義を受けての感想 ①

・データを見ると、男性の方が優遇されている

・日本はまだまだ遅れている

・１人ひとりがもう一度考え直すことが必要

・収入源が男性の方が有利

・他国のスピードが速い

・日本の国会議員の少なさがテレビからでも感じられる

・海外とのギャップがある

## 講義を受けての感想 ②

・日本は、ジェンダー平等について遅れている

・ジェンダー平等といっても、LGBTじゃなくて日常の中にある不平等に関して関心があったので興味があった

・女性の方に焦点を当てた話を聞けて関心を持てた

・学校でやっており、小学校にインタビューをした際に、進んでいると思っていたが、グラフを見ると進んでいないと感じた

・入試の減点や男性の姓になるのを知らなかった

・グラフはイメージどおり（ジェンダー不平等）

## 講義を受けての感想 ③

・女性の閣僚・政治家の少なさを問題提起しないのは違和感を感じた

・政治の世界に女性が少ないから、国全体がそうなっているのではないかと思った

・担任教科別のグラフは興味を持った
→あまり実感はなかったが、グラフを見てそうなんだと思えた

・「当たり前」だと思っていたことも、グラフを見ると違っていた

・データで示されている現実に対して、政治は後手に回っているという印象

## 世界と日本のジェンダー平等のためにできることは？ ①

・宗教と文化の理解

・小中高大の授業の中に必須にする

・幼稚園児など幼少期からジェンダー平等にふれてもらう

・テレビやラジオでジェンダー平等について発信するべきではないだろうか

・裁量権のある人にジェンダー平等を理解してもらう

・若者というより高齢者の方に考え方を浸透させることが必要

・会社でも、役割問わず全ての人が受けられる研修があれば

## 世界と日本のジェンダー平等のためにできることは？ ②

・学校教育とか、小学校のころから自分らしさに関する教育を積み重ねていくことでそういう考え方が当たり前になる社会になるのでは

・大人の凝り固まった偏見をなくせたらと思う

・祖母の世代では、化粧に対する偏見がある

・「無意識」にならない世界にする
　無意識で行動してしまったときは、あやまる

・他の国を参考にする

・議員を半分減らし、若い世代にする

# 自分たちにできることは？ ①

・ジェンダー表現に気をつける

・身近な人の意識を変えていく

・選挙に行く

・SNSで発信すること

・ゼミ活動

・ミーティングのような活動を周知することが大事

・市民団体に参加する

# 自分たちにできることは？ ②

・イベントをしていることをSNSで発信すること

・自分が正しいことを学び、周りの人に話したり発信したりすることが大事

・センターの存在を知らない人が多いと思うので、ポスターなどで認知していくことが大切

・投票に行く

・家が居酒屋をやっているので周知していければと思う

・起業するか役員になる

# 自分たちにできることは？ ③

・祖父母に伝える

・子どもの教育を行う

・選挙、署名活動に参加する

・友人や家族とジェンダーについて話し合い理解を深め合う

・ことばの表現に気をつける

・幼少期の子たちに紙芝居をする

・行政に入る

# 自分たちにできることは？ ④

・政治家になってジェンダーについて深く知ってもらう

・偏見を書き出して、調べて、「なぜ？」を解明する

・学校で先生に話し合いの時間をつくってもらう

・「自分が伝えていく」という意識をもつ

・アンケートをして、思考する機会を提供する

・普段の会話に気をつける

・考え続けること、仲間をつくること

# ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

## 7月26日（水）テーマ

## 「学校とジェンダー」

G-NETしが
じーねっと
滋賀県立男女共同参画センター

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
5 ジェンダー平等を実現しよう

## 身近にあるジェンダーから

・学校は、昔は男子は丸坊主、女子は髪をくくるなど制限があったが、今は自由
女子はズボンもスカートも選べる

・部活で男女混合はない（スポーツ系）
文化部は男女混合

・結婚すると女性が名字を変えるというのが今も強く残っている

・女性専用車両はあるのに、男性専用車両は聞かない

・育児をしたら、なぜイクメン？

・レディースデーはあるのに、メンズデーはない

## 身近にあるジェンダーから

・校長先生は男性が多い

・育休は男性が取りづらい

・男性からすると、プロポーズ、ナンパ
女性からすると、逆プロポーズ、逆ナンパ

・女性が働く社会になったが、子育てと仕事の両立は女性がしなければいけない

・世代が上の人の方が、男女の意識（固定的性別役割分担意識）が強い

・名前のない家事は女性が多くやっている

## 身近にあるジェンダーから

・男性が料理をするとモテる　→　女性はやって当たり前

・〇〇男子、〇〇女子という言葉はすでに偏っている

・スポーツ、体力（持久走など）は違うので難しいが、平等にできたらよい（今の学校の体育などは、差があると感じる）

・出席番号が男女で別だった

・メディアの影響　→　あこがれ

・男性よりも女性の方が、ジェンダーなどの意見を多く出すイメージがある

# 学校でこんなことをしてみては？

・教科書のイラストにもっと気をつける
　スカート、色づかいなど

・制服などの標記
　男児用・女児用ではなく、子ども用にするなど

・髪型をもっと自由に
　男子が長くてもOK

・先生もジェンダーフリーの物を持つ（使う）

・メイク
　男性もメイクを

# 学校でこんなことをしてみては？

・名前の呼び方
　「ちゃん」「くん」はやめて、「さん」で統一

・委員会における男女制度をやめる

・役割を決めない（色、着るもの）

・先生への教育が必要（きちんとした知識を身に付けてもらう）

・校外学習でジェンダー平等にかかわる場所を見学

・自由研究や探究学習のテーマの一つとして取り上げる

・特別講師を呼んで授業をしてもらう

## 学校でこんなことをしてみては？

・今の小中学生にジェンダーをしっかり教えていくと世の中は変わっていくのではないか

・段階に合わせて深めていき、何度も繰り返して指導する
　年齢があがるにつれて、より具体的な内容を

・カリキュラムを作る
　モデル校を作る

・色分けをなくす
　幼稚園保育園でのマーク　　（下駄箱やロッカーなど）

## 感想

・年代の違いで気づきの違いがあって面白かったです。

・教育を変えるっていうより、先生の固定概念を無くすことへの難しさを実感できました。

・ジェンダー不平等を解決するために学校で取り組むべきことを話し合って様々な意見を聞くことができて勉強になった。ジェンダーについてもっと多くの人に知ってもらう必要があると思った。

・意外と身のまわりにジェンダーの差別的なことがあると気づいた。それに気づくことが大切なのだと感じた。当たり前のように思ってはいけない。

・ミーティングの時間が長かったため、様々な意見を聞いて話すことができて非常に勉強になりました。

## 感想

・身近にジェンダーの課題があるのは分かっていましたが想像以上にたくさんあって、完璧にジェンダー平等とはいかないとは思いますが、少しずつジェンダーを知ってもらって平等に近づけばいいなと思いました。

・大学生だけでなく、小学生や高校生も参加してくれたことで様々な視点から色々な意見が聞けて勉強になりました。

・いろんな人のたくさんの意見を聞くことができて、自分自身も学ぶことができたし、今後学校や学校じゃないところでもジェンダーへの考えが広がっていけばいいなと思いました。

・小学生からの話を聞いて今では昔と違って、様々なことが改善、改正されているんだと知りました。また、小学生でも問題に感じているのだと認識できました。

## 感想

・身近にジェンダーの問題はたくさんあるが、完全にジェンダーの不平等を無くすことは難しいので、他者を理解する個人の思いやりや気持ちが必要だと感じた。

・今まで自分が当たり前だと思っていたこともジェンダーをいう目線から見るとジェンダー平等とは言えない部分もあると気づきました。大学生と関わる機会は初めてだったのですが理系の大学ではジェンダーの授業が取り入れられていないなど教育が行き届いていない部分もあるのかなと思いました。

・身近なところにジェンダー問題は、たくさんあるけど、すべて解決するのは難しい。そのため、1人ひとりがジェンダーについて理解を深めていく必要があると思います。

・わりと若い世代はみんなちゃんと意識している方が多いと思います。

## 感想

・小さいことからジェンダーやLGBTQなどのことを学ぶことで、今後日本や国民全体の考え方も変わっていくのかもしれないと思いました。男女平等を意識して世の中を見てみると今の日本はまだまだ不平等なことも多く残っていると感じました。

・今回ジェンダー平等ミーティングに参加してみて、前回とは違う視点からジェンダーについて考え、グループで話し合いを行うことで今後もジェンダーが小さいころから浸透して誰でも過ごしやすい環境ができればいいなと思いました。また、どんどんジェンダーについて学ぶ場が増えればいいなとも思いました。

・今回初めて参加して、正直ジェンダー平等に関心のある若い世代の人は、本当にわずかなのではないかと思っていました。ですが、今回のこのミーティングでたくさん関心がある方がおられることにびっくりしました。機会があればまた参加させていただきたいです。

# ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

## 8月26日（土）テーマ

## 「デートDVとジェンダー」

G-NETしが（じーねっと）
滋賀県立男女共同参画センター

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
5 ジェンダー平等を実現しよう

# 「デートDVとジェンダー」

## 講師：上野淳子さん（四天王寺大学准教授）

・「デートDV」は和製英語

・中・高生にも加害者、被害者がおり、大学生で一番多く起こっている

・虐待やいじめとも関連している

・若い世代への働きかけが重要である

・デートDVは「暴力」と認識されにくい

・暴力をきちんと認識できる知識を身に付ける必要性がある

・男性の被害リスク　いずれの暴力に関しても男性の方が高い

# 「デートDVとジェンダー」

## 講師：上野淳子さん（四天王寺大学准教授）

・暴力行為とジェンダー
異性カップルにおける暴力行為とジェンダーの組み合わせにおいて
「男性被害ー女性加害」「ジェンダーで差なし」が多い

・男性はジェンダー意識ゆえに打ち明けにくいだけかもしれない

・ジェンダー不平等な社会構造がさまざまな女性の暴力被害、男性の暴力加害を生み出しているのは明らか
　男性も実際に暴力を受けていて、ビクビクしている

若い世代への予防教育

「男性被害ー女性加害」にも目を向けた相談体制

## 感想

・デートDVについて知って、恋人間で男性被害が多いということを知って驚いた。固定概念に囚われずに物事を考えることが大切だと感じた。

・イメージとは全く逆の統計結果ばかりで、この人数しかこの講義を聞けないのが残念に思うくらい意義のあるものだった。
きっとほとんどの人は、男性加害が多いと思い込んでいると思うので、今日の内容はもっと多くの場所で知られて欲しいなと感じた。

・男性の被害が多くあることを初めて知った。女性の方が被害にあっている、守るべきという固定観念に囚われていることが分かった。

## 感想

・デートDVについて知らなかったのでお話を聞けて面白かったです。女性の方が被害が多いイメージでしたが、男性の被害が表に出ないからと考えると、ジェンダー問題の深刻さを感じました。

・男性がDV被害の多いの思った通りでした。やはり世の中にまだまだジェンダーに対する固定観念が強いとわかりました。ジェンダー平等を完全に実現できるまでまだまだ長いですね。

・この講演の題名を聞いた時にまず女性被害のことが頭に思い浮かびました。男性の被害についての世の中と自分の意識の低さに驚きました。女子トイレにはデートDVに関する相談センターの紙が貼ってあったりしますが、そのような対策を男性にもしていくことが大切であると感じました。

## 感想

・デートDVというものの存在を知ることができた。そして、たくさんの統計を元にした日本の現状を理解でき、様々な対策が必要であると感じた。

・男性被害が報告しやすい環境を作る必要性を強く感じました。知らなかったなどの声もあるので周知・発信をするべきなんだろうなって思いました。

・DVの被害は女性が多いと思っていましたが、実際は男性の方が多く周りの人間の考え方が男女不平等であるということを学びました。男性が被害を受けたことを相談していいのかわからないと言ったということを聞いて男性も女性も考え方を変えていかなければならないなと思いました。

## 感想

・男女のデートDV件数の比率などを見て、女性の方が被害の報告が多く、やっぱりなと思ったが、それはそもそも男性の相談先が少ないということが原因の一つであるとわかりました。
これからは男性の相談先も増やしていくことが、デートDV全体の件数の減少に繋がっていくのではないかと思いました。

・男性による暴力が目立っているが、その実女性の暴力も横行している現状がある、むしろ女性の暴力の方が多いというデータさえあるということを周知しなければならないと思った。デートDVという言葉はあまり聞いたことは無かったが、我々があまり意識していないようなことでも暴力になりうる可能性があるということについて恐ろしく思った。